

Title	横山松三郎先生年譜
Sub Title	
Author	
Publisher	三田哲學會
Publication year	1960
Jtitle	哲學 No.38 (1960. 11) ,p.A1- A7
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000038-0001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00150430-00000038-0001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 横山松三郎先生年譜

## 一 略歴

一八九〇年（明治二三年二月九日）横山三八、同くりの三男として茨城県水戸市上市上金町に生る。

一八九六年（明治二九年四月）水戸市立上市尋常小学校入学。

一九〇〇年（明治三三年三月）同卒業。

一九〇〇年（明治三三年四月）水戸市立高等小学校入学。

一九〇四年（明治三七年三月）同卒業。

一九〇四年（明治三七年四月）茨城県立水戸中学校入学。

一九〇七年（明治四〇年二月）渡米のため茨城県立水戸中学校を中途退学。

一九〇七年（明治四〇年五月）渡米、ユタ州オクデン市に滞在、オクデン市公立小学校に通学。

一九一〇年（明治四〇年一月）コロラド・スプリングス・ハイスクール入学。

一九一三年（大正二年六月）同ハイスクール卒業。

一九一三年（大正二年九月）コロラド大学入学。

一九二一年（大正一〇年一月）クラーク大学リサーチ・アシスタントとなり、実験心理学の講義及び指導を分担す。

一九二二年（大正一〇年六月）クラーク大学にてドクター・オブ・フィロソフィーの称号をあたえられる。

一九二二年（大正一〇年一〇月）帰朝

一九二三年（大正一一年四月）慶應義塾大学予科教員となる

一九一六年（大正五年九月）コロラド大学心理学科助手となる。

一九一七年（大正六年一月）コロラド大学にてS.B.A.会員に薦せらる。

一九一七年（大正六年九月）ハーバード大学大学院入学。ブ・アーツの称号をうける。

一九一八年（大正七年六月）ハーバード大学大学院にてマスター・オブ・アーツの称号をうける。

一九一八年（大正七年九月）クラーク大学大学院ドクター・コース入学。

一九二一年（大正一〇年一月）クラーク大学リサーチ・アシスタントとなり、実験心理学の講義及び指導を分担す。

一九二二年（大正一〇年六月）クラーク大学にてドクター・オブ・フィロソフィーの称号をあたえられる。

一九二三年（大正一一年四月）慶應義塾大学予科教員となる

(心理学、英語担当)。

一九二三年（大正一二年四月）慶應義塾大学文学部課外講師として心理学実験室創設を依嘱さる。

一九二三年（大正一二年三月六日）横浜市、柴田登志子と結婚、横浜市大岡町字藤の木一一四四番地に居を定む。

一九二四年（大正一三年一月三〇日）長男雄一生る。

一九二四年（大正一三年四月）慶應義塾大学文学部講師となる、心理学、実験心理学担当。兼専修大学講師となる（心理学担当）（一九二五年）。

一九二六年（大正一五年九月）慶應義塾大学文学部心理学実験室創設。

一九二六年（大正一五年一月二九日）長女操生る。

一九二六年（大正一五年四月）三田哲学会委員（一九二七年）。

一九二七年（昭和二年四月）日本心理学会創設委員（一九二六年）。

一九二七年（昭和二年一月）横浜市磯子区磯子町五九六に移転、現在にいたる。

一九二九年（昭和四年七月）慶應義塾大学文学部助教授となり（心理学担当）、同予科教員（心理学、英語担当）を兼ねる。

一九三〇年（昭和五年八月一七日）次女玲子生る。

一九三一年（昭和六年六月）（関東）応用心理学会創立、同委員。

員。

一九三二年（昭和七年六月）特選塾員に推薦さる。

一九三四年（昭和九年）応用心理学会大会委員長。

一九三七年（昭和一二年四月）三田史学会会員（一九三八年）。

一九三八年（昭和一三年四月）慶應義塾大学文学部教授となる（心理学担当）。

一九三九年（昭和一四年七月）兼藤原工業大学予科講師（心理学担当）（一九四〇年）。

一九四〇年（昭和一五年三月）日本心理学会心理学述語調査委員会委員（一九四一年）。

一九四一年（昭和一六年五月）「心理学会」会則制定委員会委員。

一九四一年（昭和一六年七月）日本心理学会は応用心理学会と合併して心理学会と改称す、心理学会評議員（一九四二年）。

一九四三年（昭和一八年九月）軍事援護学会職業委員会委員（一九四四年）。

一九四四年（昭和一九年一月）日本学術振興会第二常置委員会委員（一九四五年）。

一九四四年（昭和一九年四月）語学研究所所員（一九四五年）。

亞細亞研究所所員（一九四六年）。

一九四五年（昭和二〇年一〇月）兼東洋大学専門部講師（心理學担当）（一九四六年）。

一九四六年（昭和二二年一月）日本応用心理学会創立（第二次）、日本応用心理学会常任運営委員、第一回日本応用心理学会大会委員長、心理学会理事（一九四四年）心理学研究編集委員（一九四六年）心理学研究編集委員（一九四六年）心理学研究編集委員（一九四六年）（昭和二一年四月）日本学術振興会第八九小委員会委員長（一九四六年）（ローマ字の心理学的研究委員会）。

一九四九年（昭和二十四年四月）第一三回日本心理学会大会委員長、心理学会評議員（一九四九年）。

一九五〇年（昭和二十五年三月）ガリオア基金にて米国各大学における心理学・社会心理学の発達状況視察のため渡米、心理学会は日本心理学会と改称。

一九五〇年（一九五〇年四月）日本心理学会常任理事（昭和三四年）。

一九五〇年（昭和二十五年一〇月）精神医学研究所顧問（一九五〇年）文部省進学適性検査問題作製委員（昭和二九年）。

一九五一年（昭和二六年七月）ストックホルム第一三回国際心理学会議に日本代表として出席、研究を発表、

Journal of General Psychology 編集委員（一九五一年）。

一九五一年（昭和二六年四月）日本学術會議、心理学研究連絡委員会、幹事、委員、International Union of

Scientific Psychology 代議員会委員（一九五一年）Psychometric Society 会員（一九五一年）慶應義塾体育会ボクシング部長（一九五一年）。

一九五二年（昭和二七年）文部省学術奨励審議会学術用語分科審議会、専門委員（心理学）（一九五二年）。

一九五三年（昭和二八年一一月）昭和二七年を以て慶應義塾勤続三〇年となり表彰を受く。

一九五四年（昭和二九年六月）コロラド大学において名誉理学博士号を与えらる。

（七月）カナダ・モントリオール大学における第一回国際心理学会に日本代表として出席、感覚心理学研究協議会議員、The Japanese Psychological Research 編集委員（一九五四年）。

（一〇月）東京大学大学院人文科学研究科講師（一九五五年）。

一九五五年（昭和三〇年一〇月）慶應義塾大学大学院社会学研究科委員長（一九五五年）航空医学心理学会常任理事（一九五五年）。

一九五六年（昭和三一年）The Royal Society of Arts and Manufactures 編集委員（一九五六年）。

一九五七年（昭和三一年一〇月）慶應義塾大学文学部長（昭和三四年）慶應義塾理事。

一九五八年（昭和三二年七月）第一二回日本心理学会大会委員

最、The Japanese Psychological Research 編集

主任（—昭和三四年）Psychologia 編集顧問（一現在）。

一九五八年（昭和三四年四月）航空医学心理学会監事。

一九五九年（昭和三四年五月）大学院社会学研究科委員長代理。

（七月）日本心理学会会長となる。

（九月）慶應義塾大学産業研究所運営委員会委員。

一九六〇年（昭和三五年七月）日本学術會議心理学研究連絡委員会委員長。

## 七 の 他

日本学術研究会議 国語国字問題研究委員会ローマ字班

長。

同上 外国文献等利用研究委員会委員。

日本学術會議 文・哲・史学会連合理事。

大学基準協会 専門委員（心理学）。

大学設置審議会 専門委員（心理学）。

大学基準等研究協議会 文学専門部会委員。

人事院上級職試験専門委員

教育心理編集参与

慶應義塾協議会員

慶應義塾大学評議会委員

Affective tendency as conditioned by color and form.

*Amer. J. Psychol.*, 32, 81—107. 1921

The nature of the affective judgment in the method of paired comparisons. *Amer. J. Psychol.*, 32, 357—369.

1921

本塾大学心理学教室の新設備について 三田評論 第三十一八号

一九二四

感情の実験方法について 心理研究 第二十五卷 第四号 一九一四

感情と色彩及び形状——実験報告（学会鳥瞰）心理研究 第五卷 第一号 一九二四

ホール先生と栄養心理学 教育学術界 第四九号 九九一一〇

三 一九二四

直接経験の観察と観察態度 哲学第一輯 一八九一一四三 一

九二六

色彩と感情 三田評論 第三十四三号 一九二六

ティチナー追悼録『逝けるティチナー先生』心理学研究 第一卷 第五号 九一五一九一七 一九二七

感覚の概念に就て 心理学研究 第二卷 第五号 四五一一四

五五 一九二七

感情の本質に関する一考察 全日本心理学第一回大会発表 心

理学論文集 I 一九二七

識態と覚 哲学第五輯 三三一六四 一九二九

視的把握に於ける露出時間の影響 哲学第六輯 二三五十二四

八 一九三〇

An Experimental study of affective contrast 川合教授遺稿

記念論文集 二二七一一三四 一九三一

感情の対比について 心理学論文集III 一九三一

触空間に於ける距離比較判断（第一報）心理学論文集IV 一九

三三一

表情判断の一実験的研究 応用心理研究II（江坂昇と共著）一

九三四

触空間に於ける距離比較判断 哲学第一四輯（小池喜代蔵と共

著）一六一一八一 一九三五

触空間に於ける距離の知覚 心理学研究 第一〇卷 第五、六

号 第一〇周年記念号 一九三五

田中、丸山両氏図画成績考查用尺度による採点の客觀性につい

て 教育心理第一〇卷（小池喜代蔵と共著）一九三五

触空間に於ける距離比較判断（第二報）心理学論文集V 一九

三五

藤林敬三教授著経済心理学（書評）三田評論 一九三五

児童の絵画鑑賞力と描画能力について 教育心理第一一卷 一

九三六

等重量の継時の比較判断 応用心理学会第二回連合大会発表

（林鉢藏と共著）一九三六

児童の知能と絵画鑑賞力 応用心理学会第二回連合大会発表

（小池喜代蔵と共同）一九三六

中等学校入学試験科目としての国語と算術 教育心理 第一二

卷（小池喜代蔵と共著）一九三七

形態の複雑性とその把握時間 日本心理学会第六回大会発表

心理学論文集IV（金子秀彬と共同）一九三七

「絶対判断」の相対性について 日本心理学会第六回大会発表

心理学論文集VI 一九三七

嘘検出器の話 慶應俱楽部 一九三七

意識の相対性について 三田哲学会公開講演 一九三八

睡くなる話「農政」農政協会 第一〇号 八八一九二 一九三

九

感情判断の恒常性について 日本心理学会第七回大会発表 一

九三九

場の構造と感情——絶対感情判断の相対性と恒常性—— 哲学

第二二、二三輯 四四五—四六五 一九四〇

感情判断に於ける学習効果 心理学研究 第一六卷 第二号

（山田悌四郎と共著）一九四一

感情の同化に就いて 心理学研究 第一六卷 第二号 一九四

絶対判断の相対性について（補遺）心理学会第九回大会発表

心理学研究特輯号（林鍊藏・平野茂と共同）一九四二

慶應大学心理学研空室報告 心理学研究特輯号 一九四二

感覚の概念について 心理学研究特輯号 一九四二

静止的視空間に於ける中心定位の実験的研究補遺 心理学研究

特輯号（小池喜代藏と共同）一九四三

アメリカ的心理学の性格 科学知識 第二六卷 第一〇号 一

九四六

学習に於ける前進的禁止について 日本心理学会第一回大会

発表（斎藤幸一郎と共同）一九四七

学習に於ける前進的禁止に就て 第二報 日本心理学会第一

二回大会発表（斎藤幸一郎と共同）一九四八

ワトソンの行動心理学 現代心理学序説（林鍊と共同）明治書

院 一九四九

音性の好惡に関する一実験的研究 日本心理学会第一三回大会

発表（奈良治代と共同）一九四九

最近のアメリカ印象 米国大学教授の家庭生活 時事新報 五

月一七日一一九日 一九五〇

所謂感情の同化について 日本心理学会第一四回大会発表（奈

良治代と共同）一九五〇

The proactive inhibition in learning and memory.—An experimental study. *Proceedings of the 13th International Congress of Psychology*, Stockholm. 1951

アメリカに於ける心理学研究の現状（一般的印象）日本心理学

会第一五回大会講演 一九五一

視空間に於ける点の定位に及ぼす弧の影響 日本心理学会第一

五回大会発表（吉田俊郎と共同）一九五一

A glimpse of American psychology 三色旗 一九五一

田中ビネー・鈴木ビキー知能測定法に於ける絶対尺度の構成

田中寛一博士古稀記念論文集 四五九一四七七（印東太郎と  
共著）一九五一

图形残効に関する小実験 日本心理学会第一六回大会発表（小

川隆と共同）一九五一

進学適性検査、学力検査および論文式学科試験の過去および將

来——学力検査との相關—— 日本心理学会第一六回大会応

用面宿題共同研究報告 心理学研究 第二三卷 第二号 五

九一六〇（林鍊・印東太郎と共同）一九五一

民主主義の理解 哲学第二九輯（小川隆・斎藤幸一郎と共著）

二六一一二七〇 一九五三

情意実験法——感情 心理学講座 第六卷 中山書店 一九五

三

高さの知覚に関する一実験的研究 日本心理学会第一七回大会

発表（名取清子と共同）一九五三

心理学遍歴——修学時代の思出—— 児童心理 第八卷 三四

三一三四八 一九五四

視空間における高さの知覚（）日本心理学会第一八回大会発表

（山根恵美子と共同）一九五四

Recent developments in sensory psychology.—A critique.

Read at the 14th International Congress of Psychology,

Montreal. 1954

経済原理 心理学事典 平凡社 一九五七

機能心理学・構成心理学・ジェームス・マキン・キャナル・

実験現象学・ジェームス・ランゲ説・情操 世界百科辞典

平凡社 一九五四一九

視空間における高さの知覚① 日本心理学会第一回大会発表

(山樹恵美子と共同) 一九五五

白ネズミにおける回避条件づけ 日本心理学会第一回大会発表

表梅津耕作と共同) 一九五五

動物と道具 「三色旗」 第一〇四卷 一一月号 一九五六

視空間における長さの知覚④ 日本心理学会第一〇回大会発表

(山樹恵美子と共同) 一九五六

「ユラーリエル錯視に関する一実験」 日本心理学会第一〇回大

会発表 (河合悟と共同) 一九五六

視空間における長さの知覚⑤——奥行知覚—— 日本心理学会

第二回大会発表 (山樹恵美子と共同) 一九五七

ティチナーに於ける感情の概念——史的回顧—— 哲学第三四

輯 二九七一三一八 一九五八

視空間に於ける長さの知覚 哲学第三五輯 (山樹恵美子と共

著) 六四五一六六〇 一九五八

視空間における長さの知覚⑥ 日本心理学会第二回大会発表

(山樹恵美子と共同) 一九五八

四海同胞 「三色旗」 第一三七卷 八月号 一九五九

アーム・チニア心理学・一般心理学・因果的心理学・機能心理学・構成心理学・常識心理学・内容心理学・結合説・思惟

精神物理学の誕生 第二十四回日本心理学会大会特別講演 一九六〇